

24/3/8 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

浅井正仁（自民：中川区）：続きます名古屋城天守閣木造復元についてであります。

先日名古屋城の討論会で人権に関わる発言がされたことを検証する委員会から中間報告が出されました。

実に90ページにわたる膨大な報告書となっています。

それで先日の総務環境委員会では河村市長にこの膨大な中間報告を受けて、我が党のくずや議員が、改めて今の市長の考えを聞きました。

しかし市長は去年の6月23日の本会議のときの議事録を読み上げました。

いいですか検証委員会は当然、この本会議での市長答弁も含めて今回中間報告を出しているわけです。

市長の超目玉施策名古屋城天守閣への昇降機を巡って起きた残念な発言に関する検証委員会の中間報告に対する考え方を聞かれ、去年の答弁を読み上げるのは、あまりにも不誠実だと言わざるをえず、検証委員会の中間報告を受けて、誠実に謝罪から始めるべきだと思いますけど、市長のお考えをお聞かせください。

次に松雄副市長にお伺いします。

確か松雄副市長は、現在国際コンペで選定されている技術開発をしている業者に公募に応じてもらえるよう、直接頼みに行かれたと、この本会議場でも述べていますということは、市長の言う尺取虫やリニアや、ここで皆さん方、尺取虫とリニアを少し解説させていただきたいと思います。この尺取虫とは何か。

市長、そして特別秘書まず尺取虫は、階段をギクシャク車いす自体で登るといったものだと思います。

そしてリニアについては、ワイヤーのないエレベーターぐにゃぐにゃぐにゃぐにゃ。

行くやつだということが経済水道委員会そして総務環境委員会で明らかになりました。

この尺取虫ですよ。

ということでこの尺取虫リニアは市長さんにご執心なんですけども、副市長さんは先ほど述べた通り国際コンペで選ばれた会社にまで事前にそこでお聞きしますが、副市長も観光文化交流局と同様、尺取虫は初耳だったのか、それとも知っていたのか。

また、今回の市長の話聞いて、国際コンペで選定された業者より、尺取虫やリニアの方を期待したいと思ったのか、思わなかったのかお答えください。

そして名古屋城の天守閣を復元するために、技術提案を受けて竹中工務店と協議を締結してから、もうずいぶん日が経ちます。そして竹中工務店とは505億円を上限とする約束となっています。

そこでお聞きしたいのですが、現在までに一体いくら竹中工務店と契約し、そして、いくらかを支払ったのか観光文化交流局長にお伺いいたします。

これで私の第1回目の質問を終わらせていただきます。

河村市長：市民討論会におけます、中間報告の発言に対する中間報告に対する市長の考えをということでございます。正確に期す方がいいと思います。

一応文章にしておりますので、「本市が主催した市民討論会において差別発言に適切な対応が取れなかったことを速やかに謝罪をしなかったこと等に関して、改めて当事者の方々や、心を痛められた方にお詫びを申し上げます。

中間報告での差別発言に対する問題意識の欠如等が指摘されており、私としても大いに反省をしております。

また再発防止に向けて取り組むべき事項も掲げられており、差別は人権侵害であり、いかなる場合でも許されるものではありません。

今一度肝に命じて今後の事例市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

検証はこれからも引き続き行われ、最終報告がされると聞いております。

まずは、中間報告でご指摘いただいた対策などについてしっかりと対応していきます。」

松雄副市長：名古屋城天守閣木造復元に関連いたしまして、いわゆる尺取虫、リニアの技術に対する私の考えについてお尋ねをいただきました。尺取虫の技術につきましては、市長がその業者と会ったという平成30年6月6日当時、私自身は観光文化交流局には在籍しておらず、またその後も尺取虫の技術について聞いたことはございませんので、承知しておりません。

尺取虫やリニアの技術への期待の有無以前に、行政の手続きといたしまして、公募で選定された株式会社MHIエアロスペースプロダクションの技術がバリアフリーに最高のものであると考えておりますので、引き続き着実に開発を進めてまいり所存でございます。

以上でございます。

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局には、名古屋城天守閣木造復元に関しまして、天守閣木造復元事業費に係る契約状況についてお尋ねをいただきました。

竹中工務店との令和6年2月末現在の契約状況が、総額505億円に対し、基本設計および実施設計、木材の調達と、製材、石材調査等について、失礼しました。石垣調査等について約129億の契約を締結しており、これら契約案件の支払い済み額につきましては、約67億となっております。以上でございます。

浅井正仁（自民：中川区）：それぞれご答弁いただきました。名古屋城については、再質問させていただきます。

それでは名古屋城について質問させていただきます。

では市長さん、今回の中間報告を受けて市民討論会に対する市長のね、評価ですが、今回の市民討論会実施してよかったと思っているのか。

または、実施すべきではなかったと思っているのか。

どちらなのか、正直な気持ちをお答えください。

河村市長：今回の市民討論会では無作為抽出で選ばれた市民のうち、希望者に参加していただいております、私自身初めてのことでございました。

多くの市民の方からこのような会で発言しにくいと思うけれども、今回参加いただいた市民の方から、ご意見いただけたことには感謝をしております。

一方で、参加された一部の市民の皆様から他の参加者への差別発言があり、会の始めに注意喚起を行うなどの対策ができなかったことについて反省をしております。

以上です。

浅井正仁（自民：中川区）：市長さん、なんかあんまり質問に答えてないと思うんだけど、初めてだったから、何だったんだろうね、結局今のお話を聞いていると、反省する部分はあったけど、感謝している。

つまり市長は人を傷つけたけど、討論会は良かったと評価だと思います。

人権の検証委員会もね、まだ中間報告、市長のこうした発言をね、最終報告で考慮される結果が出ると思いますが、今日も私はこれ以上の言うこと、言うのは差し控えたいと思いますが、この発言は本当にどうかなと思います。

では次の質問をさせていただきます。市長は本定例会に昇降機の技術開発に係る補正予算を上程していますが、一方で、尺取虫やリニアといった昇降技術について先日の総務環境委員会で、熱く、熱く熱く語っていました。

そして昇降機の最有力候補は、リニアだとの発言もされてました。

そして先日の経済水道委員会でそれを聞くために、田中特別秘書さんに来ていただきました。

でね、その経済水道委員会で、これらの技術についていろいろ聞かさせていただきました。

まず観光文化交流局は、尺取虫は聞いたこともないしと言っていました。ね。

そのときに言われたのは、特別秘書が言ったのは、市長と、田中特別秘書と業者だけがあつたと。

シークレットだから、名古屋城は入れてもらえなかったような発言がありました。

で、リニアについては、ね、これ公募が終わってからですよ、昨年のごめんなさい、令和4年の12月23日にリニアの会社が名古屋まで来ましたよね。

そんでいろいろあそこのモックアップんところでお話をされた。

その2日後には、断りの電話が入ったんですよ。

で結局、市長は、総務環境で、尺取虫とリニアを熱く語ったんだけど田中特別秘書に、よくよく話を聞いてみたら、リニアの会社と、ごめんなさい。

ごめんなさいね2日に断られた。尺取虫はこれ4年前に終わってた話だって言うんですよ。ね。

4年前に、令和30年の5月、ごめんなさい、平成30年の5月に国際コンペをやると、市長が言われた。

そして平成30年のその1ヶ月後、6月に尺取虫の会社と市長と特別秘書があった。
ね。

4年も前の話で、これ継続しとったのかなあというところで、全くもってオオカミ少年の童話のような話だったのかな。

委員会が終わった後なんかものすごい侘しく、私は感じましたよね。

市長さんにね、ここでお尋ねしますけど。

今議会に提出しているね、補正予算に基づいて昇降技術の開発を進めていく中、それ行くのか。それとも補正予算の議案を取り下げて、昇降機を開発は、尺取虫か、リニアが出来てからするのか、どちらなのか。

明確にお答えください。

河村市長：木造天守の復元は、多くの方から早く実現をしてほしいとの声をいただいております。

木造天守の昇降技術は公募で選定した垂直昇降設備の事業者と契約したところであり、この技術の実現性が高いため、まずはやれるところからやるということも必要なので、引き続き昇降技術開発を進めていく。

従って、補正や当初予算の議案の取り下げは、考えておりません。

一方で、私としても、より多くの方に、天守の最上階を楽しんで、いただけるものならいただきたいということでございますので、新たな技術へのチャレンジも必要だということでございます。以上です。

浅井正仁（自民：中川区）：今、市長自身が言った通り、尺取虫は応募がなくて、リニアには断られたんだから昇降機の開発は、誰が考えてもこの国際コンペで選定された業者以外ないんですよ。

だから補正予算も当初予算も議案の取り下げもしないのは、これ当たり前の話。

ね、今市長はね、いろいろとあっさり謝罪して、あっさり昇降機は国際コンペで選定された業者と開発していくと答弁されてるんだけどだったら先日のね、総務環境委員会で、なんて何遍も謝っているとか、リニアが言う最有力候補だとか言ったのか。

真剣に市長の言葉を受け止めて、3時間も議論した総務環境委員会が私、本当に滑稽に思えてなりません。

先輩たちが哀れでしようがありません。

それでね、市長ね。

今松雄副市長も、尺取虫は知らなかったし尺取虫もリニアも行政手続きをされておらず、記載の有無以前ね、記載の有無以前だと言い切ってます。

そんな状況でね、新たな技術にチャレンジするって今、市長さん、言いましたよね。

新たな技術でチャレンジする。

言われましたけど、市長が一人で勝手にね、夢や幻やね。

あるいは妄想なのかもしれない。

言うのは自由だけど、今後ね、絶対に職員だとか、議会の巻き込んでね、ましてや税金を使うことのないようにしていただきたいと思います。

市長を松雄副市長は尺取虫やリニアの技術はそもそも期待の有無以前とまで言ってるんだから市長も尺取虫とリニアをここで綺麗さっぱりね。

頭から消してね。いただきたい。

で、もう公募が終わってんだからね。

多分ネットで検索して、業者探しとんのかもしれん。

ね、だけでも国際コンペやってんだからね、その国際コンペのMHIが最上階目指すって言ってんだから。

後出しじゃんけんみたいなことは、これ行政手続きね、副市長も言っとったけど、おかしい話だと指摘させていただきます。

それから、次の質問をさせていただきます。

市長は市民説明会をやる、確か定例記者会見でそう言ってみえましたが、これはどのような形で市民説明会をするのか。

観光文化交流局に市長から具体的にどのような指示がされたのか、また観光文化交流局として現段階での市民説明会の開催については、どのようなお考えなのか、観光文化交流局長にお尋ねします。

佐治観光文化交流局長：市民向け説明会の開催につきまして、再度のお尋ねをいただきました。

市長から直接の指示は受けておりませんが、定例記者会見におきまして、市民向け説明会を開催したいとの発言されたことは承知しているところでございます。

しかしながら、検証委員会の最終報告を踏まえて、観光文化交流局としての総括や、再発防止策を示した上で、当事者へまず謝罪をし、それを受け入れていただくなど、信頼の回復により取り組むことを最優先すべきであると考えておりまして、議会も含め、広く皆様、市民の皆様はその結果を示した上で、市民向け説明会の開催に繋げてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

浅井正仁（自民：中川区）：市長さんいいですかね、今この時期に市民説明会をやるのは観光文化交流局長が言うように、適切じゃないと私も思います。

定例記者会見はね、思いつきで発言する場じゃないと思います。ちゃんとしっかりと事務局と調整していただきたい。

ということで。次の質問に行かせていただきます。

今回の検証委員会の中間報告では、文化庁の資料提出を焦ったことが、結果として討論会の準備不足に繋がり、不適切発言を招いたとのことでした。

文化庁へ8月に提出するよう、当局に指示したのは松雄副市長でした。

検証委員会では、こうした指示も含めて議論されているのでそのときの指示については、私はどうこうは言いません。

しかし、これが繰り返されるようなことがあっては駄目だと思います。

そこで確認ですが、この検証委員会が終わり、再発防止策がまとまり、障害者団体の方々が納得されるまでは、事業は前には進めない。

これは去年の6月議会でも、佐治局長も松雄副市長も答えてます。

しかしあれから1年たったね、中間報告も出た。よもやね。

今6月ごめん、3月ね。

次回あるのは8月その次は12月よもや中間報告だけで、また同じ過ちを繰り返しような復元検討委員会のかかるような資料を文化庁に持っていくようなことはないとは思いますが、確認です。

松雄副市長、お答えください。

松雄副市長：今後の事業の進め方につきまして、私の認識をお尋ねをいただきました。

去年の6月3日に開催いたしました。本市主催の市民討論会におきまして、差別発言を受けた当事者の方の人権を深く傷つけ、また障害者団体との信頼関係も大きく損ねてしまいましたので、私といたしましては、検証委員会からの中間報告が出たタイミングで、当事者の方のもとに直接出向き、心からの謝罪と、二度とこうしたことが起こらないように、再発防止策を徹底することをお伝えしたいと思っておりました。

そしてどういう環境を整えたら、建設的対話に復帰いただけるのか、率直にご意見を頂戴できればというふうに思っておりました。

しかしながら、現実的には、最終報告に向けて更なる検証を行うこととされており、その検証結果を十分に考慮した上で、信頼回復に最優先で取り組まなければならないと認識をいたしております。

従いまして、整備基本計画の取りまとめや文化庁への提出時期について、言及できる段階ではなく、以前もお答えした通り、検証委員会の結果を踏まえた上でないと、前には進めないというふうに思っております。

以上でございます。

浅井正仁（自民：中川区）：松雄副市長検証委員会の結果を踏まえた上でないと前に進めないということは、検証結果が出たら出す気満々なんですかね。

障害者の理解だとかはどこ行っちゃった。ね。

こないだのこの間の本会議でね、私が文化庁からもらった資料をもとに、これ、名古屋城の方が、文化庁行って、書面ではくれなかったけど、口頭で書いてきた。

そこにね、書いてあるじゃないですか「バリアフリーについては、再現される天守を広く観覧のように供することが重要だと考える。関係者が納得するような形で決着するように対応をお願いする」と。

先ほど副市長にはここが抜けてるんでしょ検証委員会がもう終わったらね、出すような言い方この部分はどこ行っちゃったんだ。

ね。

副市長。もう一回答弁お願いします。

松雄副市長：もちろん前提といたしまして、障害者の皆さんが納得をしないと前に進めないというようなあの答弁をさせていただきました。

ですから、とにかく私といたしますと、検証委員会の再報告が出る前にでも直接障害者の皆様のところに行って過ちを犯しましたので、謝り、そしてそういうことをしながらですね、どういったタイミングになったら、まさに今先生がおっしゃられたような関係者が納得するような形で決着するように対応できるのか、そのどういった場合に環境が整うのかということとを率直にお聞きしながら、それに向けて対応したいということとでございまして、このところを私が軽視しているわけでは、決してございません。

浅井正仁（自民：中川区）：はい、副市長の気持ちはよくわかりました。

でね、今ちょっと副市長さんまだ障害者の方とはお会いできる時期ではないんですか。

ちょっとその辺を教えてください。

松雄副市長：先ほど答弁いたしましたように、お会いできるならば一刻も早くお会いして、謝罪をしたいと。

二度とこういうことが起こらないようにということも、申し上げ伝えたいというふうに思っておりますけれども、なかなか現実的には叶わないというような状況でございます。

浅井正仁（自民：中川区）：ということは副市長は、会ってもらえない。

なら、観光文化交流局の局長さんは今、どんな状況でしょうか。

佐治観光文化交流局長：まだ会っていただける段階でないと思っております。

最終報告が出た段階で、きちんと局の総括をして、再発防止策なんかも整えた上で、初めて相手方の方にコンタクトがとれるのかなと考えているところでございます。

浅井正仁（自民：中川区）：その時期については私もわかんないけども、ね。

こういった委員会だとか、本会議の言葉を聞いて、ね。

皆さんが、考えるんですよね。障害者の人たちは。

この間の総務環境の話聞いて、障害者の方たちは、なんて思ったんだろうね。

最終的な報告が、あと1年後なのかわかんないけども、そっから考えるでもやることは、あるかもしれない。ね。

よくよく考えていただきたいと思います。

最後の質問にさせていただきますが、かつて市長はね、全責任を負うという指示書を書きました。ね。

本会議だったか委員会でも、僕の質問に市長は全責任を負うと、言いました。

先ほど佐治局長が、観光文化交流局局長が、竹中工務店との505億既に129億ね。

でこの金額を言われました。

で税金を使わないで、入場収入で、補う。

これ本当にね、大丈夫なのかなって今思うんですよ。ね。

そこで市長にね、確認しますが、名古屋城天守閣の復元予算は上限505億円で言うね。

そういう理解でよろしいでしょうか。

河村市長：天守閣木造復元事業については、事業の進捗に合わせてその都度、議会に諮りながら、竹中さんと段階的に契約を締結し進めてきていると。

基本協定を締結した平成29年が7年経過しまして、その頃と比べ、建設物価や人件費の高騰、改正労働基準法の施行など建設業界を取り巻く環境が大きく変化し、業界としても大変苦勞していることは承知しております。

しかしながら竹中工務店からは、木造天守復元は大変意義のある事業であり、505億円を超えないよう最大限の努力をしたいと。聞いておりますので、本市も協力しまして、名古屋市民の誇りとなる木造天守復元の実現を目指してまいりたいということです。

浅井正仁（自民：中川区）：市長さんは大丈夫といいますがね、例えば今、名古屋市がやっ
てる国際会議場、令和4年の予算ベースで259億、これ不調に終わりました。

そして11月に補正予算を組んで310億円、これも不調に終わりました。

今補正予算、提出している。これ450億で公募してんですよね。実に1.7倍。ね。

さらに資材は高騰するのかもしれない。

でね、これから昇降機の技術開発にね、昇降機の技術開発に3年、復元検討委員会で、早くて3年。

穴蔵の石垣の調査そして、解体まで考えると、ざっと見積もっても、最低10年はかかるね。

10年かかるということは、さらに最低保管料だけで10億円。

139億円さらに人件費がかかるからもっとかかるよね。

でね、そんな状況にも関わらずね。

その後、残りのお金で何をやるかという、ね。

まず、穴蔵の基礎の木材も買わなきゃいけないし、石垣のハラミもやらなきゃいけないし、仮設もやらなきゃいけないし、設計もやらなきゃいけないし、そして解体もしなきゃいけないし、そして本体工事もやらなきゃいけないし、ね。

1ミリも動いてなくて129億円を使っただけ。ね、市長。

1ミリも動いてないんですよまだ、結果的には、本当にこれ505億でね、できるとは到底思えない。

これ技術提案方式だから、出来高でしょ。

この先はまだいつかじゃないかなと僕は思うので、あえてこの場所では言わないけど、ね。だから市長を何回言っても申し訳ないんだけど、これもしね、505億でできなかつたら、これ市長の責任ということで、いいんだよね。ね。

事業費の上限505億円を、万が一超えたら、市長が払うということでもいいんですよ。

市長は全責任を取るとということで、いいんですよ。

市長、お答えください。

河村市長：先ほど言いましたように契約の文章がここに 있습니다。

契約の文章がありますのでこれ、「名古屋城天守閣整備事業に関する基本協定書 平成29年5月9日の第12条 事業費の遵守」と、いうところがありまして、「優先交渉権者は第5条第2項で示した事業費を遵守する。2項 優先交渉権者は設計業務、調査業務、工事管理業務および工事施工業務を進める段階において要求水準の変更または法令変更。

消費税等の税率変更を除く等の事態が生じた場合においても、本事業費の上限金額の範囲内で契約を締結するよう最大限の努力をするものとする。

それから3項 優先交渉権者は前項の場合において自らの努力のみでは、合理的に本事業費の上限金額を遵守することができない場合、発注者と協議する。

4項 発注者は、前項の協議を行った場合は、協議の過程および結果について公表することができる」と こういうふうな契約しております。

あんた先どうぞ。

上こうやって契約しとる契約しとること以外のことは言えないです。

契約しとること以外は言えませんよ。そんなこと、契約違反になっちゃうよ。

議長：この際、市長に申し上げます。

許可された質問者に対して的確な答弁を行うようお願いいたします。

河村市長：ってなんか国王が帝王かなんですか、これ。

議長：この際、市長に申し上げます。

答弁は質問に対して的確に行い、また簡潔をお願いいたします。

河村市長：何べんも言っておりますけど、こういう契約を交わしておりますして、その契約契約に従って、忠実に行動するとそういうこと以外には言えるわけじゃないじゃないですか。

浅井正仁（自民：中川区）：今回は全責任取るって言わないんだよね、市長。
なんでだ。お金が絡むから、何。何なんだろう。
指示書にも全責任は私が取ると書いてあるじゃないですか。
ねどうぞ、市長。

河村市長：前言ったとき、ついたかどうかわかりませんが、技術提案交渉方式のときに全責任は自らとる。文章になってます。
これは。それはそれです今のやつは、これは金額のことですので、金額のことについてはこういう契約をしておるといことです。
そういうことじゃないですか。

浅井正仁（自民：中川区）：それはそれ。これはこれ、全くわかんないけどね、全くわかんないけど、全くもってわかんないけどね、今。
ね。

順調にいったら、市長 2020 年だったんだよね、最初。
2020 年ね、22 年に変わった 28 年これは誰が言ったのかわかんないんだけどね。
この遅れは、ね。

竹中のせいですか。違いますよ。
名古屋市が遅れたからですよ。
こんなことやってるからですよ。ね。これ竹中が、ね。遅延を理由に、ね。
何時かの時点で、もう、できませんって言ったらどうしちゃうんですか。
ね。

どうするんですかね。1 回よく考えていただきたいと思いますね。
市長さんも自分の責任を含めて、で、私は議員になったときに、うちの今の横井利明団長から「議会は、チェックすることが一番の課題。一番の仕事だ」って教えられました。
議会のチェックをすればいいけど、市長の幻想だとか幻に付き合わされるのは、もううんざりなんですよ。

ね。
市長も発言するならば、発言してもいい、夢を語るなら夢を語ってもらっていい。
ね。

夢を語れない社会なんて寂しいものはないただ、語っていい場所と語って悪い場所これはわきまえていただきたい。

この名古屋城はねもう完全に暗礁に乗り上げました。
今後どうするのか、先ほど松雄副市長と観光文化交流局長が、新しい道を言われました。
そちらに向かって、しっかりと姑息なことをせずに、中間報告が出たから復元検討委員会にかけろだとか、そういう指示はないように 2 人が言ったことを着実に守って、進めていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

議長：次に、日程第 70 号より第 80 まですなわち第 49 号議案名古屋市上下水道事業審議会条例の制定についてより第 60 号議案、令和 5 年度、名古屋市下水道事業会計補正予算まで、以上 6 件を一括議題に挙手しますこの場合、経済水道委員長の報告を求めます。

上村経済水道委員長：ただいま議題となりました第 49 号議案を始め、6 議案につきましては、第 59 号議案に関し、能登半島地震における上下水道局による被災地支援の状況について触れるところがあり、委員からは、能登半島地震被災地域応援経費について災害に対する市民への意識啓発に繋げるとともに、被災者の命と生活を守り、寄り添った尊い活動を市民に広報することとの要望がなされるなど、慎重に審査をいたしました結果、いずれも全会一致、原案通り可決すべきものと議決いたしました次第であります。

以上ご報告申し上げます。

議長：次に、日程第 84、第 54 号議案、令和 5 年度名古屋市一般会計補正予算を議題に起用します。

この場合、関係各委員長のご報告を求めます。

次に、経済水道委員長のご報告を求めます。

上村経済水道委員長：ただいま議題となっております第 54 号議案のうち、当委員会に付議されました関係分につきまして中小企業価格転嫁促進事業に関し、想定申請申請件数および支援実績について触れるところがあり、委員からは、次年度実施予定とされる申請があった事業者に対するアンケートはもとより、理由があって、今回申請に至らなかった事業者のニーズなどを丁寧に汲み取り、分析を行い、今回得た教訓を今後の事業に生かすことができるよう、しっかりと総括を行うこと。

との要望が出されるなど、慎重に審査いたしました結果、全会一致、原案通り可決すべきものと議決いたしました次第であります。

以上ご報告申し上げます。

以上で、各委員長の報告は終わりました。

ご質疑もないようであります。

本案はただいま委員長報告通り決しましてご異議ありませんか。

ご異議なしと認めます。

よって、第 54 号議案、令和 5 年度、名古屋市一般会計補正予算は委員長報告通り可決されました。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

お疲れ様でした。